



リサイクル燃料備蓄センターにおける
新規制基準適合性審査の対応状況等について

2022年11月10日現在
リサイクル燃料貯蔵株式会社

目次

- 1 . 新規制基準適合性審査の状況（トピックス）
- 2 . 安全対策工事
 - 2-1 . 安全対策工事（分割1回目）
 - 2-2 . 安全対策工事（分割2回目）
 - 2-3 . その他工事
- 3-1 . 安全性向上に向けた取り組み【事故対応力向上】
- 3-2 . 安全性向上に向けた取り組み【現場力向上】
- 4 . 事業開始までの工程
- 5 . まとめ

【参考】

- 会社概要
- リサイクル燃料備蓄センター立地地点
- リサイクル燃料備蓄センター立地地点周辺の状況
- リサイクル燃料備蓄センター建屋イメージ

1. 新規制基準適合性審査の状況（トピックス）

【事業変更許可の審査状況】

- 2022年1月20日、原子力規制委員会の指示文書（2021年4月26日付）に基づき、「標準応答スペクトルを考慮した地震動評価」に伴う基準地震動の追加、あわせて新知見を取り入れ、事業変更許可申請を実施。
- 2022年7月22日の審査会合において、基礎地盤の安定性評価については、今後、審議すべき論点はなく、概ね妥当な検討がなされた、との評価をいただく。
- 2022年9月20日、基準地震動を見直し一部補正申請を実施。

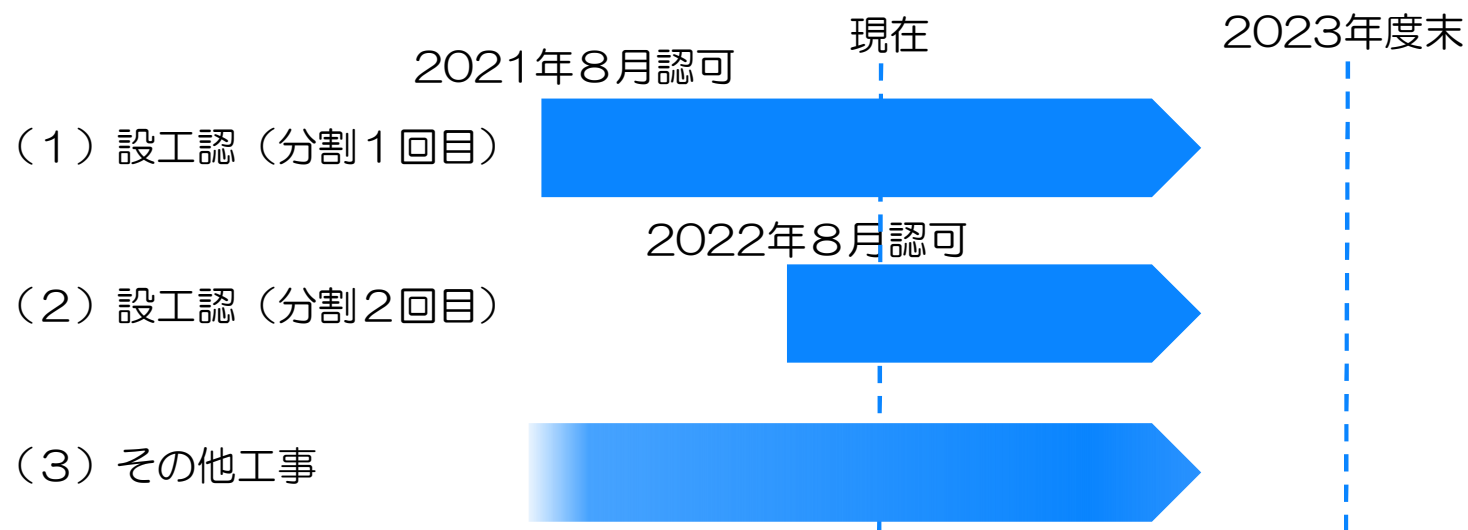
【設計及び工事の計画の変更の認可（以下設工認）の審査状況】

- 2021年11月12日、電気設備以外全ての設備の設工認変更認可申請（分割2回目）を実施。
- 2021年11月30日、設工認変更認可（分割2回目）の審査会合が開かれ、その後、2022年5月10日の審査会合において、論点となる事項は残っていない、と評価をいただく。
- 2022年7月29日、設工認変更認可申請（分割2回目）の補正申請を実施。
- 2022年8月16日、設工認変更認可（分割2回目）を取得。
- 2022年9月30日、電源車の仕様変更に伴い、設工認の変更届出を実施。

2. 安全対策工事

- (1) 設工認（分割1回目）の工事は、工期が長い電気設備が対象
- (2) 設工認（分割2回目）の工事は、上述以外の設備が対象
- (3) その他工事は、設工認の対象外だが、より安全性を高めるために実施

【イメージ】



◆ 安全対策工事は、2023年度内に完了する予定

2-1 . 安全対策工事（分割1回目）（1 / 2）

工事名	工事内容
軽油貯蔵タンク新設工事 (P 4 参照)	外部電源喪失時における施設の安全監視や仮想的な大規模津波(23m)襲来時における復旧活動拠点へ電源供給を担う電源車への燃料供給を確保するため、高台に軽油貯蔵タンクを新設する。
電源車増設	外部電源喪失時における施設の安全監視等に電源車を活用するが、既存の電源車の点検等があってもバックアップできるように、追加で1台増設する。
高台電源整備工事	仮想的な大規模津波(23m)襲来時に対応するため、高台に電源供給施設を新設する。

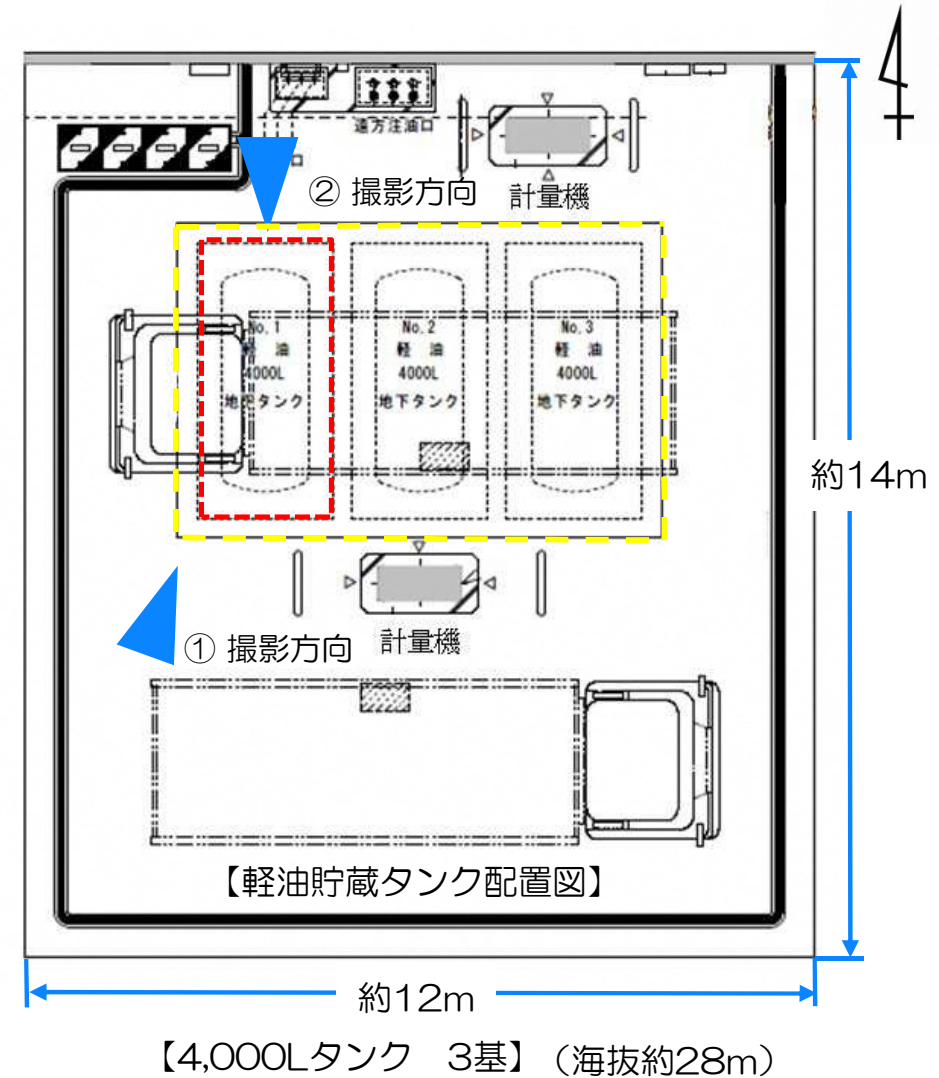
2-1 . 安全対策工事（分割1回目）の一例 （2 / 2）

【軽油貯蔵タンク設置工事】

外部電源喪失時の継続した電源確保のために軽油貯蔵タンク(地下式)を新設



【軽油貯蔵タンク設置工事：2022年9月15日現在】



2-2 . 安全対策工事 (分割2回目) (1 / 2)

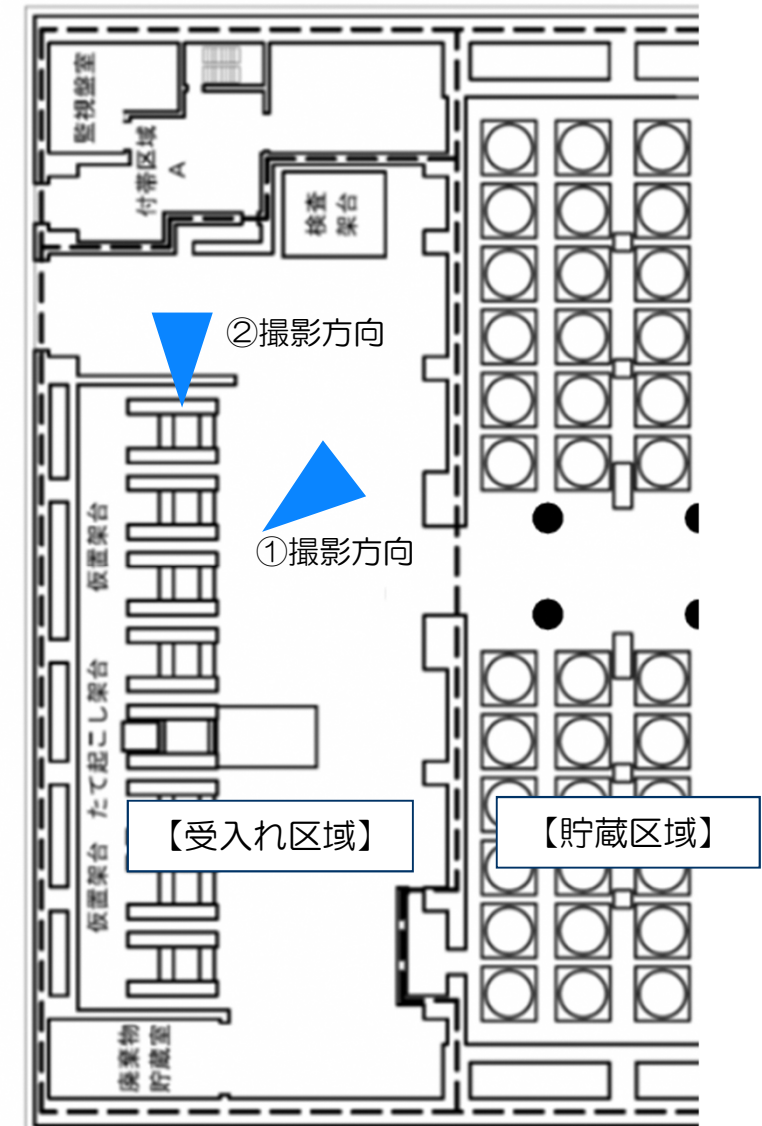
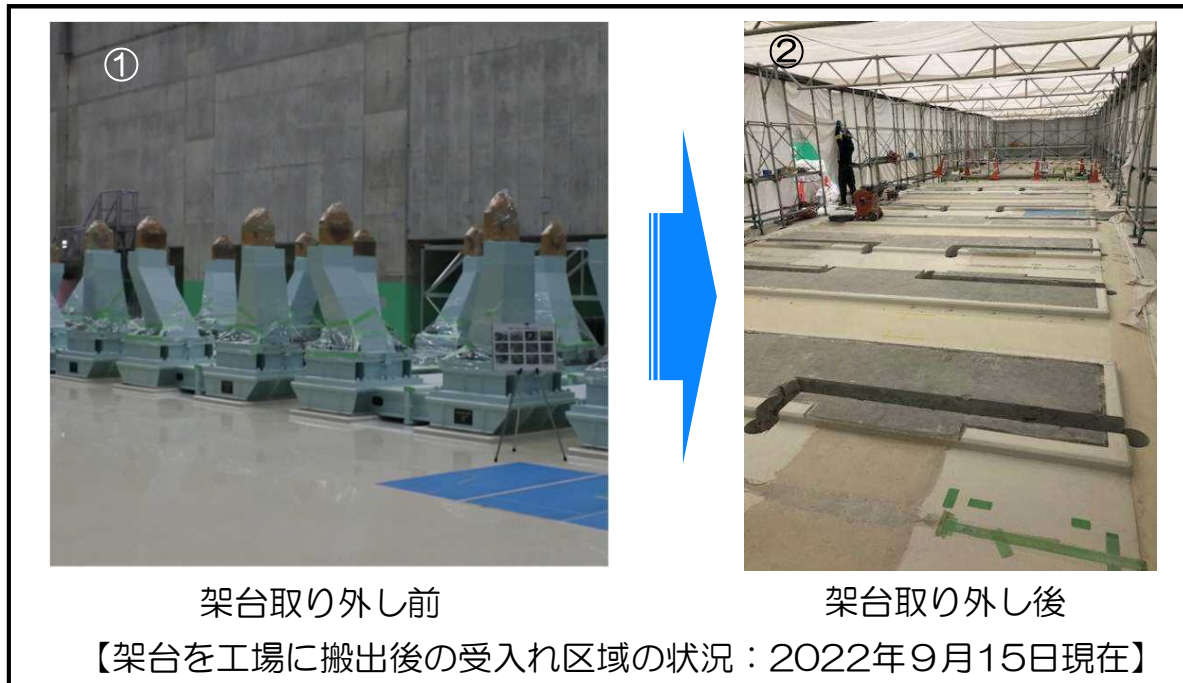
工事名	工事内容
たて起こし架台津波漂流防止対策工事 (P6参照)	津波襲来時、受入れ区域の金属キャスクの仮置き架台等が漂流しないよう補強を行う。
受入れ区域天井クレーン耐震補強工事	地震発生時、受入れ区域の天井クレーンの一部の部材が金属キャスクに落下しないように補強を行う。

2-2 . 安全対策工事（分割2回目）の一例（2 / 2）

【たて起こし架台津波漂流防止対策工事】

津波襲来時のたて起こし架台の漂流防止対策として、補強を実施

（写真②は床面コンクリートの工事の状況）



【使用済燃料貯蔵建屋】

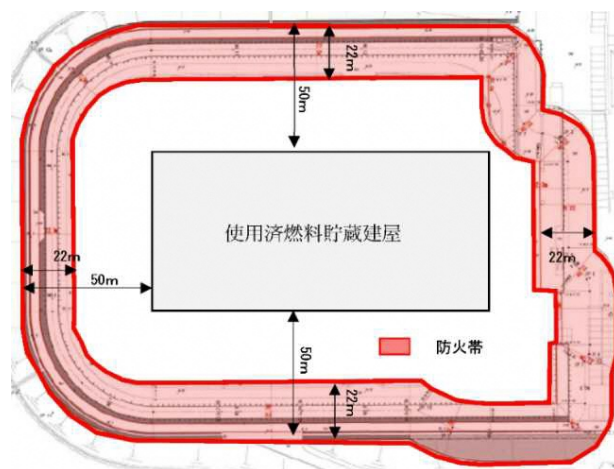
2-3. その他工事 (1 / 2)

工事名	工事内容
防火帯設置工事 (P 8参照)	貯蔵建屋を外部の火災から防護するため設置。
データ収集装置取替工事	金属キャスク温度、圧力や放射線等のデータ収集装置の更新。
受入れ区域天井架構鉄骨への緩衝材設置工事 (P 8参照)	仮想的大規模津波(23m)襲来時の貯蔵建屋一部損傷に備え、天井架構鉄骨落下時の影響緩和を自主的に実施する。
高台予備緊急時対策所 設置工事	仮想的大規模津波(23m)襲来時に必要な資機材等の保管のため高台に事務所・倉庫棟を新設する。

2-3. その他工事の一例 (2/2)

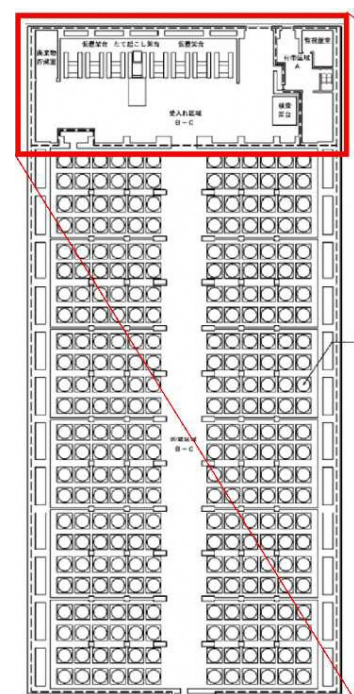
【火災対策工事】

- 防火帯設置
貯蔵建屋を外部からの火災を防護するため設置



【津波対策工事】

- 受入れ区域天井架構鉄骨への緩衝材を自主的に設置
貯蔵建屋の一部損傷に備え、天井架構鉄骨落下時の影響緩和のため設置

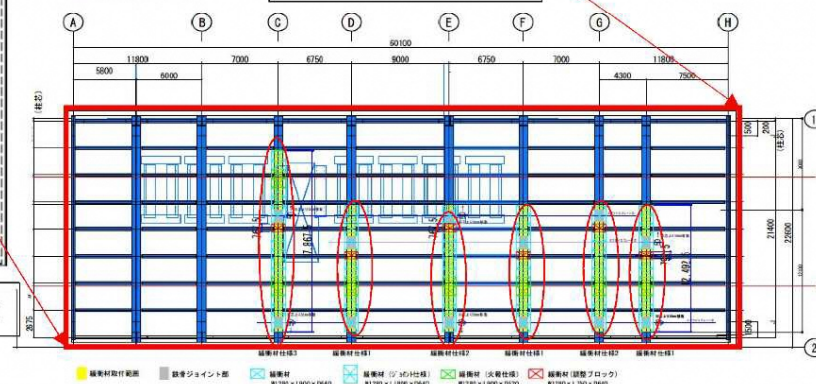


使用済燃料貯蔵建屋平面図



緩衝材割付図

緩衝材設置状況写真



天井架構鉄骨配置図

○; 緩衝材設置箇所

3-1 . 安全性向上に向けた取り組み【事故対応力向上】

事業開始に向けて、以下の活動を進めている。

➤ 総合的なリスク評価の実施

- ◆ 当社作業・施設で想定されるトラブル事象（設備、火災、人災等）や地震や津波等に起因する事象を抽出し、その影響（安全機能、放射線、設備等）への対応策を整備していく。

➤ 事故対応力の向上

- ◆ 各種訓練で緊急時対応能力の向上を、教育の充実で個々人の能力向上と緊急時対応をマネジメントできる人材の育成に取り組む中。
- ◆ 訓練は、トラブル等発生時に有効に機能する緊急時計画となるよう、ブラインド訓練、休日・夜間・冬期等、実践的な訓練を重ねていく。
 - 総合防災訓練：年1回
 - 社内防災訓練：年5回
 - 社内連絡訓練：年5回以上
- ◆ 自然事象からの脅威に対して、日頃から備えていくことに取り組む中。



【総合防災訓練の様子】

3-2. 安全性向上に向けた取り組み【現場力向上】

事業開始に向けて、現場力の向上を図るため、以下に取り組んでいる。

➤ 金属キャスクの取扱い訓練

- ◆ 金属キャスクは、専用のトレーラーで貯蔵建屋受入れ区域に運び込み、天井クレーンで吊り上げやたて起こしを行い、貯蔵架台に据え付ける。据え付けた後は、搬送台車を使って建屋内を移動し、貯蔵区域で貯蔵する。このため、天井クレーンや搬送台車を用いた取扱い訓練に取り組んでいる。

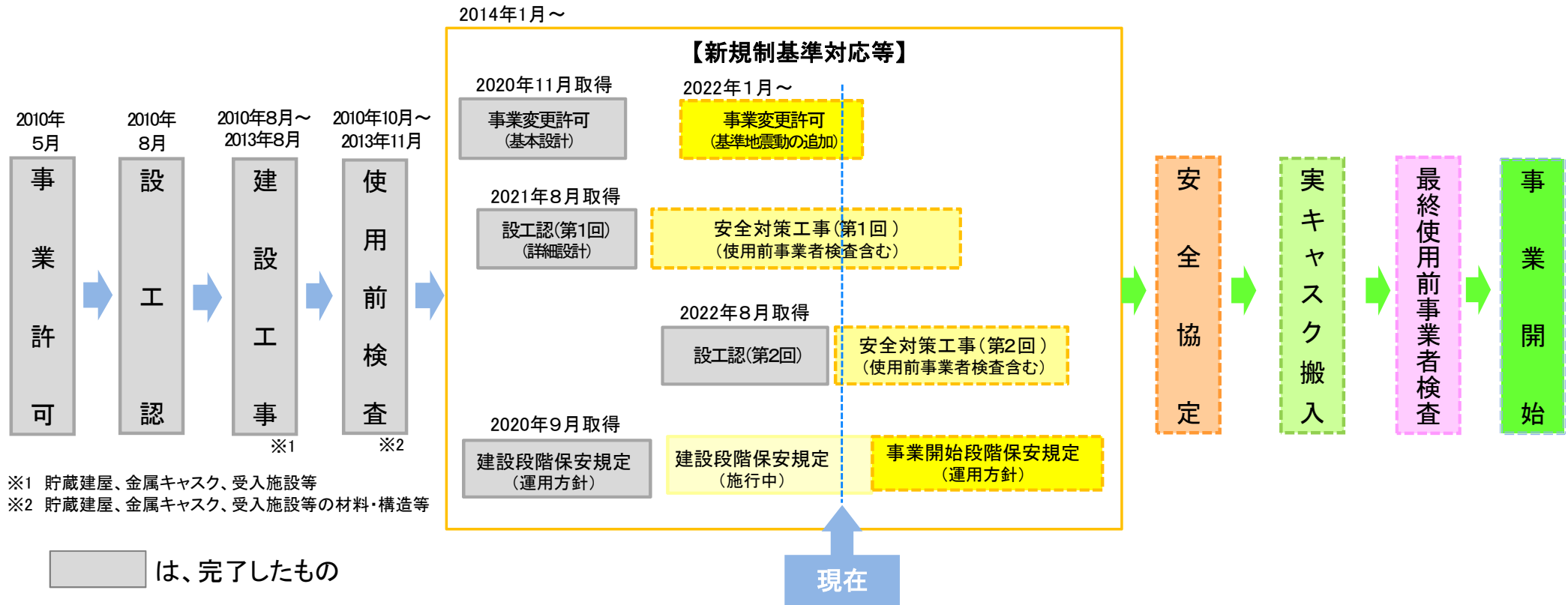


【横置き状態の金属キャスクを天井クレーンで取扱う訓練の様子】



【金属キャスクのたて起こし訓練の様子】

4. 事業開始までの工程



<事業開始時期：2023年度見込み>

「事業開始段階の保安規定の変更認可」の見通しが得られた段階で、具体的な目標時期を見極める。

5. まとめ

安全対策工事を確実に進めると共に、事業開始段階保安規定の認可等に取り組んでまいりたい。

安全性向上への取り組みに終わりはない、との強い意識のもと、安全管理を徹底してまいります。

参 考

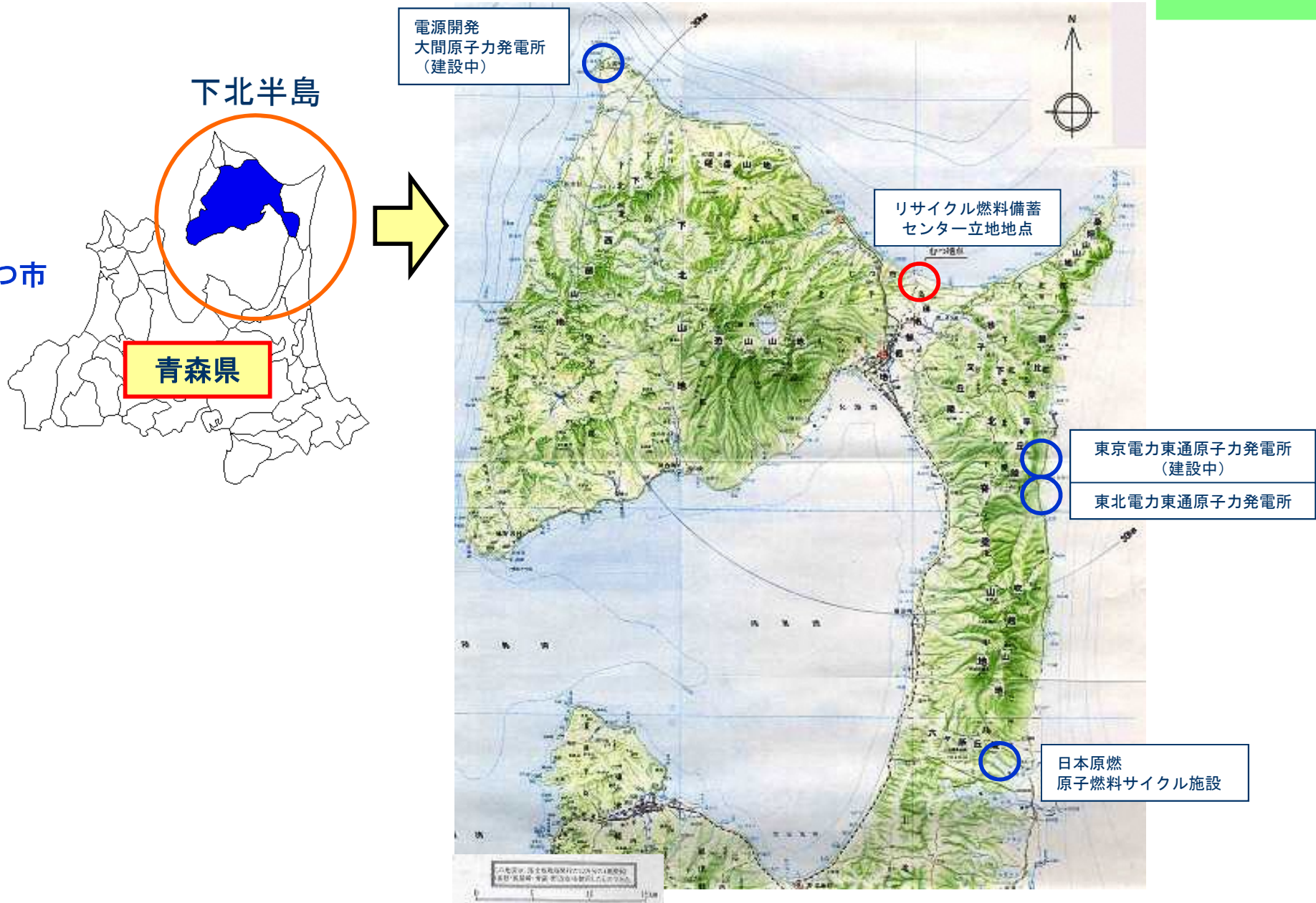
会社概要

東京電力ホールディングス(株)と日本原子力発電(株)の共同出資により、2社の原子力発電所から発生するリサイクル燃料の貯蔵・管理を目的として、当社が設立された。

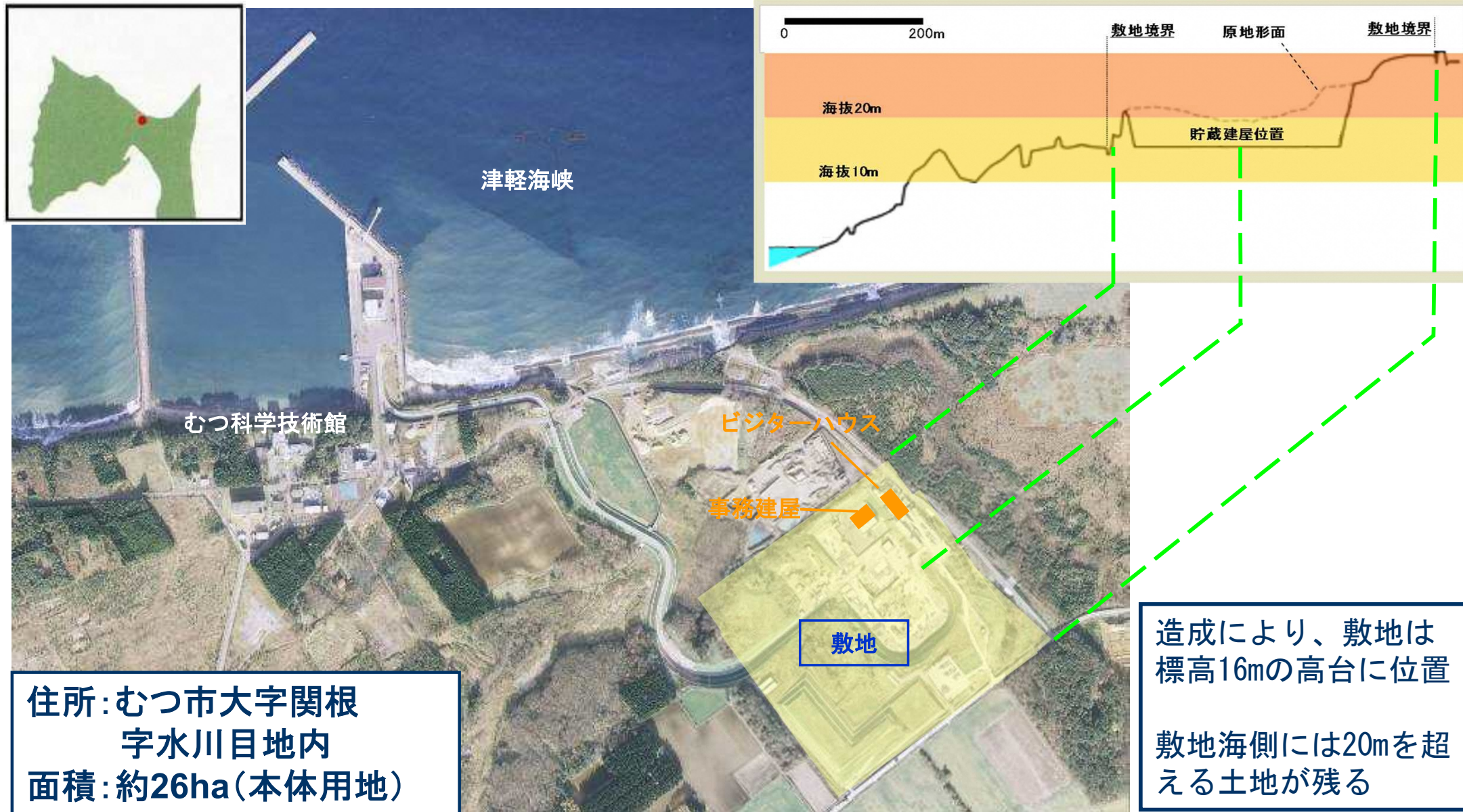
<当社の概要>

会社名	リサイクル燃料貯蔵株式会社
英訳名	Recyclable – Fuel Storage Company (略称; RFS)
所在地	青森県むつ市大字関根字水川目596番地1
設立	2005年11月21日
資本金	30億円
株主	東京電力ホールディングス株式会社(80%) 日本原子力発電株式会社(20%)
従業員	82名(2022年9月1日現在)

リサイクル燃料備蓄センター立地地点



リサイクル燃料備蓄センター立地地点周辺の状況



リサイクル燃料備蓄センター建屋イメージ

3,000トン規模の場合

